特 集

二本松の調査実施本部の設営とそこでの作業

齊藤 敬
尚網学院大学

本プロジェクトの調査実施本部は福島県二本松市岳温泉の「あだたらふれあいセンター」とした。これは筑波大学の恩田裕一先生が中心となり選定を行って頂いた場所であり、JTの葉たばこ生産者の研修施設として利用されている施設である。福島県の中心近くにあり、100人近い人数を収容できる会議室と土壌試料採取で使用する物品を収納できる倉庫、土壌試料採取の練習が可能な畑を有しており、本プロジェクトを遂行する上で最適の場所であった。

調査実施本部設営は、プロジェクト開始前の5月29日頃から始まった。まずは調査実施本部への資材の搬入から進めた。プロジェクト開始以前から徐々に準備を進めていた資材の一部（鉄パイプ・ポリ袋等）は福島県庁及び三進金属工業福島工場に仮置きさせて頂いていたため、それらを調査実施本部に集約させた。さらに調査実施本部に届くよう手配されていた土壌試料採取に必要な備品・消耗品の受け取りと整理、足りない消耗品の現地での調達、印刷複合機の調達、土壌試料採取位置を記録するために使用するGPSのマニュアルの作成、30班分の土壌試料採取用具の準備など、大阪大学核物理研究センター（RCNP）及び安全衛生管理部と緊密に連絡を取り合い、直前まで調査実施本部設営の準備に追われた。

今回の土壌試料採取においては、放射線測定の実験スキルを有している参加者は多かったが、土壌試料の採取に関して経験者が少なかったため、未経験者はプロジェクトの参加前に調査実施本部の畑を利用して頂きサンプリングの練習を

図1 研修後のミーティングの様子

図2 朝のミーティングの様子

行った。また、6月5日にはプロジェクト開始前に、川俣町で研修を行った。この研修において、認識を共有し問題点等を洗い出した後、実際の土壌試料採取に臨んだ（図1）。

実際にプロジェクトが始まると、大学側の調査実施本部の仕事としては毎朝のミーティング（図2）、物品の確認・発注、新しい参加者への

土壌試料採取方法のトレーニング，土壌試料採取後の報告書の回収，翌日の土壌試料採取班・土壌試料採取地点の決定等を担当した。

土壌試料採取は当初は東京電力福島第一原子力発電所から半径 60 km 圏内を想定していたが，土壌試料採取範囲が拡大されたため，物品が途中で足りなくなることが予想された。そこで，現地から物品の追加発注を行ったが，当時の福島県内は大震災の影響もあり，物品が予定通りに調査実施本部まで届かず一部の参加者にご不便をおかけしたこともあった。

さらに，直前まで土壌試料採取に行く市町村が決まらないことや土壌試料採取当日の採取状況から，翌日の班分けと土壌試料採取地点を指定した地図等の作成を行わなければならなかつ

たため，作業は深夜～翌朝にまで及ぶことがしばしばで，プロジェクト開始当時調査実施本部スタッフは非常に苦勞していた。しかし，途中から金沢大学，東北大学，千葉大学及び大阪大学の教員・学生の一部が土壌試料採取後に自主的に手伝いにきてくださったため，後半はスタッフの負担も減り無事土壌試料採取を終えることができた。手伝いにきて頂いた方々にこの場をお借りして感謝申し上げたい。

Author

Set Up and Operation of Nihonmatsu Front Office
Takashi SAITO : Shokei Gakuin University